

平成 29 年度経済学部学生チャレンジプロジェクト事業成果報告書 とき・めーく

代表 井上 隼 (地域社会システム学科 4 年生)

(1) 目的と概要

概要：運営側で、毎回テーマを決め、そのテーマについてプレゼンテーションをする発表者を募集、または、運営側が依頼して 1 人 (組) 10 分以内でプレゼンテーションをしてもらう。プレゼン方法は、スライド、スピーチ、紙芝居、動画など自由。発表者はプレゼン後にオブザーバー (聴衆) からコメントカードを書いてもらうことで発表のフィードバックを受け、プレゼン能力の向上に繋げる。そして、参加者同士の交流の時間を設け、香川大学生のみならず、他大学、他世代との繋がりを作る。それに加え、毎月 1 名学外から講師を呼び、講演セミナーを行う。講師はテーマに沿った著名人 (起業家・コーチングやチームビルディング、地域創生研究の専門家・青年海外協力隊・地域おこし協力隊参加者など) をお呼びする。

目的：自分の知らなかった知識、世界を知る機会を作るため。また 10 分という時間内でプレゼンの伝え方、論理展開、資料の使い方等をお互いに学び合う。

大学内でのプレゼンの機会が少ないことから、プレゼン方法の模索の機会、また他人のプレゼンを見てプレゼン方法の勉強の場の役割がある。

2 年間の活動からの改善点：過去 3 回、学外から講師を招待し、イベントを開催した。その学びとして、専門家の講演によるインプットから学んだことを、聴講した学生が自分の考察を自分の言葉でアウトプットすることが重要であり、両者を同時に行うことが学生の学びとプレゼンテーションスキルをもっとも向上させると考える。

(2) 実施期間

平成 29 年 6 月 1 日 ～ 平成 30 年 2 月 27 日

(3) 成果の内容

1) このプロジェクトの具体的な成果

- 7/22 Makuake LIVE



香川県内外で学生団体の立ち上げや企業を行った高校生・大学生を招待し、プレゼンバトルを行いました。参加者は24人となり、立命館大学生や香川高等専門学校や高松東高校の高校生も参加しました。

- 10/14 留学イベント

トビタテ留学 JAPAN とコラボし、トビタテ留学 JAPAN やその他の留学経験者4人に、自分たちが留学に行くことで学んだことを講演してもらいました。参加者は25人となり、経済学部や教育学部の文系の学生から、農学部などの理系の学生も参加しました。

- 12/2 香川大学OBイベント

香川大学の卒業生であり、東京のベンチャー企業に就職した方をお呼びし、地方大学生がなかなか目を向けることのない、ベンチャー企業という選択肢を提供するために、講演してもらいました。

参加者が32人となっており、こちらのイベントでは、香川大学のみならず、立命館大学や徳島大学などの学生も参加するに至りました。

2) このプロジェクトが大学や地域社会の活性化、学業の振興などに対してもたらした影響あるいは効果

香川大学外で積極的に社会活動を行なっている学生と交流・意見交換を行い、他の地域での学生の取り組みを知ることで、各参加者が所属するプロジェクトに還元することができ、大学生が自分から積極的に行動する一歩の後押しができました。

また、他大学からの参加者や高校生の参加者もあり、他大学の活動も知ることで広い交流の場となりました。

参加してくれた高校生は、新たにボランティアをはじめたり大学生からのアドバイス

から新たな事業に挑戦しています。

(4) プロジェクトから学んだこと

今年度のプロジェクトから学んだことは以下の2点です。

I. 引き継ぎの難しさ(4年生)

とき・めーくは、4年生3人・1年生5人の8人のグループであり、来年4月から現在の4年生が抜けると、1年生のみで団体を運営する必要があります。とき・めーくは、他の学生団体やプロジェクトに比べ、少人数であるからこそ、簡単に意思決定ができ、イベントを作り出すこと自体に大変さはありませんでしたが、イベントのノウハウを知る4年生が、何をどこまで、どのように後輩たちに伝えるかがとても難しいと感じました。

II. 団体管理(4年生)

今まで4年生4人で行ってきた団体でしたが、1年生が加わったことでイベント日程の調整や効率的なミーティングに困難を感じました。特に、ミーティングでは、少ない言葉で共通認識がとりやすい4年生と、イベント設計自体が初めてのため少ない言葉では共通認識をとりにくい1年生の間で、どこまでイメージを一致させるかが課題でした。解決策として、イベントの大まかなフレームを4年生が設計し、細かい部分を1年生に調整してもらうことで、テーマが変わっても1年生のみでイベント設計ができるように取り組みました。しかし、この1年間で1年生だけでイベント設計を行うことがなかったことは残念です。全員が自主的に行動できるように、気配りや声かけをもう少し行ってもよかったと思います。

III. イベント設計の難しさ(1年生)

イベントを企画する裏方の役割は、全てが初めての経験だったため、講演者の依頼の仕方、場所の決定、当日の細かなタイムスケジュールなど、イベントの裏側はとても大変だと思いました。しかし、自分たちで企画したイベントにたくさんの人が参加してくださり、笑顔で帰っていく姿はとても嬉しかったです。これからは様々なイベントに挑戦したいと思ったし、とき・めーくの活動を通して自分たちの強みにも気づくことができたので、それぞれの強みを伸ばして行きたいと思いました。今後、自分たちでイベント設計や団体立ち上げなどに挑戦したいです。

(5) 実施メンバー

代表者	経済学部	4年	井上 隼
構成員	経済学部	4年	莊真奈美
	経済学部	4年	山田直輝
	経済学部	1年	三宅美聡
	経済学部	1年	桃谷愛美
	経済学部	1年	川村 聖
	経済学部	1年	松田奈美